

日銀神戸 支店長の 視点

竜田博之氏



今日19日、日本銀行は、これまでの「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の枠組みおよびマイナス金利政策は、その役割を果たしたと判断し、新たな金融市場調節方針等を決めて、公表しました。来月1日は、短観結果を公表しますので、これらも踏まえ、今後、改めて当コラムでも、当県の金融・経済情勢についてご説明します。

話題は変わりますが、今月は、死去された有名漫画家の功績をたたえる声が世界各国から聞かれたほか、米国のアカデミー賞を、日本を代表する2人の監督の作品が受賞する等、日本の漫画、特撮等、「サブカルチャー」ともいわれる文化等が着実に進化を遂げて、日本のみならず、世界中で認められ、愛されている

県内随所の芸術文化に触れて

ことを実感できました。兵庫県にも、アニメの聖地といわれる場所が数多くあり、関連する場所には「聖地巡礼スポット」として、国内外から多くの方が訪れています。また、当県は、さまざまな美術館等が多数あることも特徴です。

私が個人的なランニングコースとして、頻繁にその前を走っている「兵庫県立美術館」の設計は、世界的に活躍されている安藤忠雄氏が行っており、2019年には、同氏が寄託した作品等が展示された観賞無料の「Ando Gallery」がオープンしています。

先般、林洋子館長に美術館を案内していただく機会があったのですが、二つの展示棟の間の階段を上ったところにある南北の通路は、山と海の風景を切り取って見られる隠れお勧めスポットであることをご教えていただきました。屋外にある「青りんご」のオブジェはご存じでも、この風景を知らない方は、ぜひこの機会に訪ねてみてください。